

贈答品 正月用品 出賣

御屠蘇道具
種々取揃へてあります
粗景品を差上ます
是非御越し下さい……

平町二丁目
和久井屋
電話四〇五番

スタール好
ナフトール着尺
柄 モス着尺
柄 ホグシ銘仙
其外色々取揃申候

平町 (電話五七番)
龜田屋

極上中學服入荷

一年生位 四圓五十錢
二年生位 四圓八十錢
三年生位 五圓十錢

平二なかや洋服店 電二〇三

切斷の苦しみなく……
ゆびはれ、やけど、淋病
梅毒、さきりきす、乳はれ
くさ、りうまらす
其他化膿するもの一切

靈藥ムテキ

發賣元 **阿康藥店**
縣社下古鍛冶町(電話四四番)

スグキクニ 風、頭痛、
効力本位 神經痛 **ラヒト** 有偽物
丹波博士創製 たんばあめ うまくてセキ
セキトメ がヨクトマル

外科専門
花内外科 柳臟科 病外一科科般
——(入院隨意)——

◎診療時間(午前八時より午後九時まで)
但し急患は此の限にあらず

安齋外科醫院
平町田町大通り電話四三六番

耳鼻咽喉科専門
場所(舊診療所裏通り)

合津醫院
平町仲田町(電話五五九)

市原病院
平町田町(電話一一四番)

内科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋毒 市原三三男

御座敷女中
至急頼みたちし
—委細御面談の上—

大和家
平南町(電話一四番)

日刊 發行編輯人 川崎文治 本社下同番地(電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

常盤新聞

定価 一月五圓 三月一五圓 半年三〇圓 一年五五圓
郵税 五厘 廣告料 五字一圓 十字二圓 二十字三圓 三十字四圓 五十字五圓 一百字七圓 二百字十圓 三百字十二圓 五百字十五圓 一千字二十圓 二千字三十圓 三千字四十圓 四千字五十圓 五千字六十圓 六千字七十圓 七千字八十圓 八千字九十圓 九千字一百圓 一萬字一百二十圓

日刊 日曜大衆 日祝日ノ翌 日休 日曜大衆

刊夕日九月一

予の觀たる滿洲(三)
平賀 周

日本人が滿洲に腰を据へるには最も必要な権利でありしかも條約上獲得して居る権利であるから實行させねばならぬのは言を俟たざるべきである。在滿洲の邦人は殊に此の點には熱心である。土地に關連して吉林省の自然林四十六億石の木材の伐採も必要な事業である交通機關の整備と相俟つて之を伐り出し日本に輸出するの時機になつたならば米材を驅逐することは容易で

ある。同時に鑛山の採掘も必要であるがこれ等はごん／＼日本の資本をソソぎ込んで日本人の手で開發する様にせねばならぬ問題である

三、不當課税問題
奉天城内では家主を壓迫して日本人に家を貸さず日本人は漸次城内より撤退せざるを得ず従つて支那人相手の商賣に於て支那人と競争出来る結果に陥りつゝある又品物を下ろしたる場合には落地税として三分三厘の税金を賦課するこれが不當課税の問題であるが、元來一方的には賦課すべからざるものである邦人が之を拒むときは買ひ手の支那人

より徴收しつゝありこれも條約上より見れば不當の處置であるから將來撤廢せしめざるべからざる問題である

四、日本の移民
滿洲は人口疎にして土地廣大である従つて移民に適當なるが如きも日本人は善く支那人と伍し支那人の如く勤勉にして労働に富みしかも粗衣粗食に甘んじ低き生活に平然たる農民と競争して之れに打ち勝つ見込はないのである



プロケラム
松竹キネマ大作 新人主演映畫
梅若禮三郎 泉春子共演

仇討三羽鳥 全
常羽江戸崎に於ける武名を以つて鳴る
豪快なる慘劇悲雨の亂戰

松竹蒲田超特作、牛原盧彦監督
主演……鈴木傳明、八雲恵美子
主役……鈴木傳明、八雲恵美子
懂れし都生活 誘惑! 觀樂! 戀の渦中

日活超特作 志波西果監督作品
主演……大河内傳次郎、梅村蓉子、
葛木香一、瀧川銀潮、市川左廣次 助演

平手造酒 全
時は天保十二年秋十月秋既に深く尼僧院
に語る劍と涙の結晶篇……

日活學生デー 松竹 **平館**

永久不變 平町三丁目
美術引伸 **齋藤寫真館**
寫真専門 (電話呼三五九番)
——獨逸最新式高級機械設備——

方子様方 冬の御用意

幸福印 提供の特價學服

極上小倉製半ズボン上下
一二年用……一圓九十錢
三四年用……二圓十錢
四五年用……二圓三十錢
五六年用……二圓五十錢
高等科用……三圓十錢
中學生用……三圓五十錢

秋冬帽子各種取揃

平町五丁目(電話三五三番)
モリタヤ洋品店

いしいた 食的衛生 ンバ 的な多養滋 ンバ き多養滋

食パン一斤十六錢
バナナ一箱一圓
レモン一箱一圓
ミヤマリンゴ一箱一圓
ブドウ一箱一圓
ジャム一箱一圓
松本パン一箱一圓

五ツ 一ツ
五錢

平町四丁目
ヤトモツマ
番四一二話電

子鍬倉神社の拜殿 本月下旬愈よ落成

御神体は來月上旬 木の香新らしい新殿に遷す

昨年六月總工費八萬八千圓を投じて改築に着手した平町鎮座子鍬倉神社は八月の月日敷と一萬五千の延べ人員を費して今月下旬漸く落成することになった。同社では二月下旬工事中八坂神社に遷して置いた御神体を木の香新らしい新殿に遷し同時に古式にならつし壯麗なる遷宮式を舉行することに決定した。なほ當日は遷宮式だけに止め盛典は來る五月の例祭當日併せて行ふ。

東部電力の 武田所長 榮

支社營業課長に轉

東部電力平營業所長武田精一氏は今回郡山支社營業課長に榮轉することになった。が同氏は前後八ヶ年間同所長を勤め常に敏腕を振つてゐた人である。十六日午前九時廿五分平驛發にて赴任の途に着くと尚ほ後任は東京本社詰の永倉清次郎氏は郡山の橋本萬右衛門氏の二男と少壯有爲の人である。

不況を裏切り

清酒賣行 好

仕込みを増加

平稅務署管内の清酒は不景氣の割合に賣行多く豫想以上

米價上向く

然し一時的現象

石城地方の産米は舊歲末を控へて出廻り薄となり漸く高値の傾向を示したので各町村農會では好機逸すべからずと目下盛んに米價釣上の對策を考究中であるが右について平米検査員は

昨年の不作と舊歲末の出廻り薄と醸造米の仕入等が主なる原因で米價は漸く高値を呼んでゐるがこれは一時的のもので如何に政府が釣上策として内地米の買上を斷行しても舊の正月を越すと相場値段は下落するものと思はれる。

平第四校の敷地は 元郡衙裡を中心に

本日の委員會で大体決定

平町の第三小學校新築問題に立町派と南町派とに分れ敷地の爭奪戰を演じ兩者相譲らずために第三小學校は立町に建設し南町には第四小學校を

建設する

と云ふ條件で兩者が妥協し圓滿解決を見たのであるが、第三小學校は明年度から工費七萬八千圓を投じて新築の上兒童を收容する事に決定して居り來る十五日頃から地均し工事に着手する事になつ

た、一方第四小學校は第三校竣工後に着工するのであるがこの新築委員會は九日午前十時から 平町役場 に於て開き敷地の選定に就て協議を重ねた敷地は南町裏の現在田市の處で新川堤の向ひ側になるが附近には東部電力會社のガスタンクがあるのので萬一の危險を考慮し元石城郡役所裏を中心に敷地が決定されるものと見られ敷地決定と同時に町民の希望

る云々
と語つてゐたが然し一時的にもせよ米價騰貴の兆を見ることが非常に喜ばしいものであると一般農家の人々は語り合つてゐる。

地下採掘不許可か

平町の希望を容れて

平町の地下採掘問題に關し伏見町長外敷氏は既記の如く七日仙台鑛山監督局に出頭種々陳情するところあつたが前回の出願も不許可となつて居りなほ四圍の状況より推測して今回も町側の希望通り結局不許可になるだらうといはれてゐる。

縣議慰勞

木縣議慰勞

政友有志發起で十六日谷口樓に石城政友俱樂部有志は過般の通常縣會において幾多の地方問題を提起し連日善戰健闘を續けた縣議鈴木辰三郎氏のため來る十六日午後五時より平町谷口樓において慰勞の清宴を催す等であるが出席者七十名の見込である。



家庭知識

◇漆・塗・タンニン酸
どイボタ蠟一を混ぜて布袋(ガビー等がよい)の中に入

磐城軌道支配人

石城郡小名濱町磐城海岸軌道株式會社支配人丹野寛平氏はこの程同社を退いたが後任は遠藤俊一郎氏と決定した。

病室落成

金 豐間の回春院

本縣では三千五百圓の寄附配當を基本とし過般來石城郡豐間村の縣立回春院に金子病室を新築工事中の處この程いよいよ落成したが新裝の三病室は各室六疊敷で規模さして擴大なものであるが室の兩側にベランダを附しすべし理想的の設計で今後は從來の五十二デットに三個を加へ合計五十五名を收容し得る等である。

平窪の火事

水車小屋もゆ

本九日午前十時五十分頃石城郡平窪村大字下平窪字大久保水車業木田信一(三三)方

水車小屋から發火八分通り焼失鎮火したが原因は不明にて損害約一千圓

看護婦表彰

清野キヨ子氏も

平町南町清野看護婦會會長清野キヨ子女士は此程勿來町長大平陸四郎氏より傳染流行に際し技術優秀の看護婦を派出し防疫上種々の貢獻が多いとて感謝狀を贈られ又根内マスコ、高崎トメ、佐藤ミナ、四栗モヨの四看護婦は伏見平町長から同じく看護婦鈴木トヨは國井小川村長から夫々表彰狀を贈られた。

春が訪れて

梅花二三輪

元日以来連續した寒さもどやうやら昨日あたりから天候が恢復して大通りの四角あたり大道商人がならべた植木鉢の紅梅にも陽々たる春光がそよぎやがては松ヶ岡公園南崖の梅林にも二三輪の芳芬を漂はすものがあり石城の天地にも紛ふ方なき春は訪れて來たわけである。

磯節の競演

昨日の茨城縣人會

既報茨城縣人會は昨日午後五時から谷口樓に開催出席者六十名にて非常の賑ひを見せたが定刻間部稅務署長座席に着き役員を左記の如く決定

役員を決定

(會長)金成通(副會長)岡部掬(幹事)色川勝三郎、皆川元、櫻村勇、色川光以、長島菊苗、高野得助、柏木哲

年末年始の御贈答品

御化粧用

たいら石鹼は 体裁優美で價格低廉

三ヶ入 金二十五錢

六ヶ入 金五十錢

玩具文具 樂器糸類 森下商店

食料玩具 平町一丁目

次いで岡部副會長の挨拶、會員として豐崎平驛長、三宅常警支配人の演説あり宴